

ある文筆家の現在調査

小桜 陰子

この雪深いところまでよく来ましたね。随分と時間のかかったことでしょう。

隣町で〇〇寺が国宝に指定されたそうで、県内各地から観光客が押し寄せてくるみたいだから、そのうち何組かがここら辺まで来ることはあるけれどね。

なぜ私がここに住んでいるか、でしょう。あなたの知りたいう事って。そうよね。夏は短くおまけに暑い、冬は長くて日本有数の豪雪地帯。それに一番近い商店まで車で二十分もかかる土地なんて、住みたいと思わないもの。

私、ここへ来る前は都会で物書きをしていたの。でもね、全然売れなかったわ。気になるでしょうけど、その時の話はまた別の機会に、ね？

そうそう、ここに住んでいる理由なんだけど、静かさがほしいっていうのもあるわ。でも、何よりの理由はあの人……Aとしておくわ。

Aは学生時代からの友人だった。文学賞に応募して落ちたとき、Aはいつも励ましてくれた。だから、選ばれたときはまるで我が事のように祝ってくれたわ。

それにAは私とは違つて本当、明るくて人を疑うなんてしない子だった。私といるのがもったいないくらいよ。でもね、だからこそ私の心に暗い影を作り出していたの。

文学賞をもらつて三年ぐらいたつた十一月だったかしら。A

と私は隣町までドライブをしたの。〇〇寺を見に行こうってことで。その頃からあまり売れなくなってむしゃくしゃしていた私の気分を晴らそうっていうAの考えだったのかしらね。

〇〇寺を見た帰り道、近くの△△滝を見に行こうって事になったんだけど、なぜか迷つてしまったの。イライラしていた私はついAにその日の不満をグチグチこぼしてしまつた。いつもは温厚なAも、ドライブでの疲れに私のグチでしよう？人が変わったかのように怒り始めたわ。Aは学生時代にスポーツをやつていたから、ひよろい私を本気で殺そうとしていた。Aの手が私の首に回つたときだった。鞆に入れたはさみ——肩切り用の細いやつよ——をAの胸に力任せに突き立てたわ。……Aは即死したつたわ。

その時、私はAの死体を山道の先の開けた場所に棄てたの。でも気付いたのよ。これから雪に閉ざされるのであれば見つける恐れは無い。けれど、春が来たらどうしようってね。雪が融けると見つかつてしまうもの……。

雪が一メートルほど積もつた頃、私はこのトレーラーハウスを引いてここに住むことにしたの。何人もの人がこの道へ迷い込むわ。でもね、私は人がここへ来るのが許せないの。騒がしくなつてしまうから。

あら、逃げようとしたつてムダ。お茶に痺れ薬を入れてせてもらったわ。ほら、効いてきたでしょう。あはははははははははは、さあ、おやすみなさい。

キーワード  
「はさみ」、「雪が解けると」